

# 平成 27 年度 産業保健調査研究報告書

ソーシャルマーケティング手法を用いた  
産業保健に関わる保健師および担当者のための  
ウイルス性肝炎対策 Q&A 集作成を目指した調査研究

平成 28 年 3 月  
佐賀産業保健総合支援センター

## 目 次

1. 調査目的	3
2. 方法	3
3. 結果	5

### (添付資料)

● 働くひとの肝炎啓発ポスター	20
● 事業場を対象とした「ウイルス性肝炎情報提供申込書」 に伴うアンケート調査報告	23
● 肝炎受診勧奨、個人情報保護関連の通達等に関する資 料	34

## 調査研究体制

研究代表者	所属	職名	研究分担事項
江口 有一郎	佐賀産業保健総合支援センター (佐賀大学医学部)	産業保健相談員	研究の統括と「Q&A集」の作成
研究分担者	所属	職名	研究分担事項
徳永 剛	佐賀産業保健総合支援センター	所長	研究全体の総合的な見地からの確認
後藤英之	佐賀産業保健総合支援センター (一財) 佐賀県産業医学協会)	産業保健相談員	「Q&A集」作成のための考察、作成補助
木村裕美	佐賀産業保健総合支援センター (福岡大学医学部看護学科)	産業保健相談員	「Q&A集」作成のための考察、作成補助
共同研究者	所属	職名	研究分担事項
岡田倫明	佐賀大学医学部附属病院	肝臓・糖尿病・内分 内科病院助教	「Q&A集」作成のための考察、作成補助
遠峰良美	キャンサーズキャン (株)	リサーチディレクター	事例ヒアリング調査、Q&A集の作成補助
川本彩多利	キャンサーズキャン (株)	リサーチャー	事例ヒアリング調査、Q&A集の作成補助
岩永美紀	小城市民病院	産業保健師	事例ヒアリング調査、事例の検証
堀江弘子	(医) ロコメディカル 江口病院	産業保健師	事例ヒアリング調査、事例の検証
野田麻由	佐賀市立富士大和温泉病院	産業看護師	事例ヒアリング調査、事例の検証

## 1. 調査目的

ウイルス性肝炎は国内最大級の感染症と言われており、平成22年1月には肝炎対策基本法が施行され、同時に基本的な指針も示され、総合的な対策の推進が進められている（添付資料1、2）。

これまで職域においてもウイルス性肝炎対策に関して行政からも協力の要請が行われてきた。具体的には、職域でも労働安全衛生法に基づく健康診断に合わせて肝炎ウイルス検査を実施し、陽性の場合は精密検査や治療への特段の配慮が求められている。一方ではプライバシー保護の観点から肝炎ウイルス検査や陽性時の保健指導等は労働者の個別の同意に基づいて実施することなどへの配慮が求められている（添付資料3～6）。

佐賀県は肝がん粗死亡率全国ワースト1位が16年連続であり、県全体で一体となってウイルス性肝炎対策を進めなければならない。そのためにはまず県民全員が肝炎ウイルスの感染の有無を調べるために、（1）肝炎ウイルス検査を受検し、（2）陽性時には速やかに適切な精密検査に続いて、（3）抗ウイルス治療を受療するという3ステップが徹底されることが不可欠である。

しかし、実際は職域におけるウイルス性肝炎対策はいずれのステップにおいても課題は多く、当センターと佐賀大学医学部肝疾患センターが共同で実施した県内事業所11,000事業所に対するウイルス性肝炎啓発ポスター配布（ポスター：添付資料7、配布スキーム：添付資料8）および県内事業所7,500事業所に行った労働者に対する肝炎ウイルス検査に関する意向調査を行ってきた。意向調査において受検に関する姿勢は、事業所の種別ではなく、事業規模と逆相関し、特に小規模事業所であれば、肝炎ウイルス検査の受検の機会の提供のみならず勧奨に関しても積極的に推進されていないことが明らかとなった（アンケート：添付資料9、分析結果：添付資料10）。職域において、実際に労働者に接してウイルス性肝炎を含む健康管理の意義の説明や保健指導を行う役割として職域にかかわる産業保健師の活躍が期待されているが、職域における産業保健師のウイルス性肝炎対策の在り方については明確ではない。

したがって、職域におけるウイルス性肝炎対策に対してより実効性の高い具体的な「職域におけるウイルス性肝炎指導 Q&A 集」作成の必要性は高い。平成26年度の佐賀県における職域での肝炎ウイルス陽性者の精密検査受診率は37%と、職域における肝炎対策が県の課題として挙げられている。肝炎ウイルス検査の受検においては、保健師・看護師・かかりつけ医の勧めが直接のきっかけ

けとして極めて重要だということが明らかになっており（佐賀県における平成25年度アンケート調査）、精密検査の受診・抗ウイルス治療の受療に際しても、こうした医療職の影響は大きいと想定される。特に職域においては産業保健師が重要な役割を果たすと考えられる。

今後、より実効性のある陽性者フォローアップを実施するために、まず産業保健の現場における課題を明確にした上で、それぞれの課題を解決するための優良事例を収集し、産業保健師を対象としたマニュアルを作成・配布することでノウハウを共有し、産業保健師のスキルの底上げを図るものとする。

## 2. 方法

### 2.1. 課題の洗い出し

#### 2.1.1. 手法

産業保健に携わる保健師を対象とした、肝炎フォローアップに関するワークショップを通して、産業保健の現場における悩みや障害を取集し、課題の明確化を行った。ワークショップでは、普段一緒に仕事をしていない保健師6～7名でグループを作り、陽性者へのフォローアップにおける課題、苦労していることや悩み、また効果的だった事例についてお互いに共有し、発表してもらった。

#### 2.1.2. 実施日

平成27年9月2日(水曜日) 午後2時00分～午後4時00分

#### 2.1.3. 実施場所

佐賀勤労者総合福祉センター（メートプラザ佐賀）

#### 2.1.4. 対象者

協会けんぽ佐賀支部所属保健師（11名）

協会けんぽ佐賀支部委託健診機関の保健師（8名）

#### 2.1.5. プログラム概要

- 「最新のC型肝炎治療について（仮）」

佐賀大学医学部 肝疾患医療支援学講座 教授 江口有一郎

- 職域におけるウイルス性肝炎対策の課題と事例の共有（グループ毎のディスカッション）

## 2.2. 優良事例の収集

### 2.2.1. 手法

職域における肝炎ウイルス検査で判明した陽性者のフォローアップが上手くいっている医療機関 3 カ所に協力を依頼し、保健師もしくは看護師（計 3 名）を対象としたインタビュー調査（60 分／1 名）を実施した。個別医療機関の背景を考慮しつつも、有効なフォローアップ施策のエッセンスを抽出した。

### 2.2.2. 実施日

平成 27 年 11 月 25 日（水）

### 2.2.3. 対象医療機関／対象者

- ✓ 医療機関 A（市立病院・99 床）／保健師（肝炎コーディネーター）
- ✓ 医療機関 B（市立病院・98 床）／看護師（肝炎コーディネーター）
- ✓ 医療機関 C（個人病院・98 床）／保健師（肝炎コーディネーター）

### 2.2.4. 調査項目

- 職域における肝炎ウイルス検査結果の取り扱いについて
  - ・ 本人への告知方法
  - ・ 事業所への報告の有無、その方法
  - ・ 保健師が関われる範囲
- 陽性者への働きかけ（受診・受療勧奨）
  - ・ 陽性者への連絡方法、タイミング
  - ・ 効果的な働きかけ方、工夫している点
  - ・ 苦労している点・課題
- 事業所への働きかけ
  - ・ 効果的な働きかけ方、工夫している点
  - ・ 受診・受療勧奨における障害・課題
- より効果的にフォローアップが可能だと思われる仕組み・体制
  - ・ 相談窓口
  - ・ 陽性者の事前同意の取り付け
  - ・ 事業所の関与
  - ・ その他
- 陽性者や事業所への働きかけに役立つと思われるツール

### 2.3. 「ウイルス性肝炎フォローアップマニュアル」の開発・配布

2.1 で明らかになった課題や 2.2 で収集した優良事例を基に、産業保健に携わる保健師／看護師に向けた「ウイルス性肝炎フォローアップマニュアル」を開発した。監修は、佐賀産業保健総合支援センターの産業保健相談員 3 名が行った。「ウイルス性肝炎フォローアップマニュアル」は平成 27 年度事業として 300 部印刷・製本され、次年度以降、佐賀県の産業保健に携わる保健師・看護師に配布される予定である。

### 2.4 倫理的配慮

研究対象者に対する人権擁護上の配慮及び調査協力事業場に対する競争上の地位への配慮としては、ワークショップや聞き取り調査で得られる対象者や関わる事業場、事例となった個人が特定されることが無いように、匿名での記録に細心の注意を払いながら調査研究を実施した。また、ワークショップや聞き取り調査の対象者に対しては、インフォームド・コンセントの受領に関する手続きとして、説明文書を示した上で、口頭による説明を行い、自由意志に基づき書面による同意を得た。

## 3. 結果

### 3.1. 産業保健の現場での肝炎陽性者フォローアップにおける課題

産業保健に携わる保健師を対象としたワークショップを通して、肝炎陽性者をフォローアップする上での、3つの課題が抽出された。1点目は、陽性者に専門医の受診（精密検査）を勧めても実際の受診に至りにくいこと、2点目は、そもそも労働者の中で肝炎ウイルス検査を未受検者のものが未だに居ること、最後は、労働者の肝炎ウイルス検査の受検の有無や陽性者のその後の受診状況が把握できないため、フォローアップを行うべき対象者を特定できないというものであった。

議事詳細（グループディスカッション後に交換された意見）

これまで、受診（精密検査）を勧めたが受診しなかったと思われる陽性者
<ul style="list-style-type: none"><li>● 節目検診で陽性反応が出た方で、学生のころから自分が陽性であることを知っており、その後大きな病院にもかかったが、未だに治療を受けていない。毎年の健康診断で肝機能の数値を確認して、安心している様子。</li><li>● B型肝炎訴訟中の方で、熱心に話をしてくれたものの、こちらの知識不足により治療については踏み込んで聞くことができなかった（継続して受診</li></ul>

しているかどうか確認できず)。

- 肝炎陽性者の中にも様々な人がいる。インターフェロン治療の副作用のイメージが強く、「会社を休みにくい」という人もいれば、本人の知識が不足しているなどの理由で周りに肝炎であることを知られたくないという気持ち強い人もいる。
- 放っておけばウイルスが自然に消えると思っていて治療の必要性を感じていない人は、忙しいからという理由で精密検査を受けないことが多い。

#### 肝炎ウイルス検査の勧奨事例

- 集団検診を受ける年代の方であれば受検を勧めるようにしている。
- 企業検診を受託しているので、自院で初めて検診を受ける人にはもれなく受検を勧めている。

#### 精密検査の受診・抗ウイルス治療受療の勧奨事例

- 佐賀県内の精密検査が受けられる医療機関を紹介できるように、常に医療機関リストを携帯している。陽性者と一緒にリストを見ながら話をする、「この病院は知っている」という会話も生まれ、具体的なお勧めがしやすくなる。
- 仕事が忙しい労働者には、検査結果（陽性）が分かった時点で電話をしてその場で精密検査の予約を取り、当日に受けると考えられる検査内容を想定して、絶食をお願いした。精密検査以降は、専門医につないだ。陽性者へ配慮しつつも、専門医に有無を言わせつつも時には必要。
- 8年間ずっと「今は入院治療はできない」と治療を拒否していた60代女性や、過去にインターフェロン治療で辛い副作用を経験したもののウイルスが消えなかった人に対し、「今は治療が進歩していますよ」という話をしたら、二人とも再診すると言ってくれた。
- 生活が苦しい人からは、「例え助成金が出たとしても、月1万円の治療費は出せない」と言われる。生活費と治療費の釣り合いが取れず、治療を受けたくても受けられない人はいる。経済面の話がされると、助成金制度の説明はするが、強く勧めることもできない。
- 対面で受診を勧められなかった人には後日電話などでアプローチをしているが、電話にも出てくれない状況で、一筋縄ではいかない。

#### 仕組み上の課題（労働者の受検の有無や陽性者のその後の状況の把握）

- 健診機関はあくまで検査をする場所で、結果を説明して終わってしまうため、その後の状況は分からないことが多い。
- 健診機関に所属していると、その場での受療勧奨しかできず、その後どう



なったかを把握することができない。事業所にも肝炎ウイルス検査の結果は返していないので、誰もフォローアップができない状況。

- 保健指導の場で直接じっくり話す機会があっても、肝機能などの何らかの数値が変化していない人に対しては指導がしにくい。また、本人からの申告がなければ、検査結果を知ることができない。
- (健診センターのシステム上) 3年以内に肝炎ウイルス検査を受検していれば結果が表示されるが、それ以前の検査結果は見ることができず、勧奨しようにも本人からの申告がなければ陽性者かどうか分からない。
- 半年間に渡って関われる特定保健指導と違い、その場で勧奨したとしても、その後の状況については、相手から連絡がない場合には把握ができないため、フォローアップが難しい。

#### より効果的な受療勧奨をするにあたってのご意見・ご要望

- 肝炎の最新の治療方法や費用についての具体的な情報を知ること、保健師の間で受療勧奨への意欲が高まった。
- 医療機関リストが提供されると、受療勧奨をしやすい。
- 精密検査の受診につなげられたとしても、その病院で十分な対応がされないために、その後の治療に至らないというケースもある。適切な対応によって治療まで確実につなげられる病院を知りたい。

### 3.2. 優良事例の収集

職域検診を受託している3医療機関の保健師／看護師へのインタビュー調査を通して、ワークショップにて把握された3つの課題への効果的な施策を収集した。いずれの医療機関でも、保健師／看護師による効果的なコミュニケーションに加え、「医療機関リスト」や郵送時に同封する「検査結果の見方」といったサポートツールの活用や、次年度の健康診断時、事前にフォローアップが必要な陽性者を把握し適切な対応が取れる体制作りなど、様々な施策を実施していた。

#### 3.2.1. 効果的なコミュニケーション

##### 3.2.1.1. 肝炎ウイルス検査の勧め

通常健康診断に含まれる肝機能検査では、ウイルス性肝炎の早期発見は難しいことを伝えた上で、忙しい働く世代に向けて“手軽感”と“お得感”を伝えることが効果的とのことであった。

- 手軽感：「職域は忙しさが一番の障害なので、そこを解消するのが大事」

- ✓ 「今回の健診の採血で一緒にできますよ。1 度受ければ安心なので、今回ついでに受けましょう」
- お得感：「金額は気にする人が多い」
- ✓ 「通常だと 4000-5000 円かかる検査だけど安く受けられますよ」

### 3.2.1.2. 肝炎ウイルス検査受検時に伝えるべきこと

肝炎ウイルス検査の意義と重大性を伝えるとともに、陽性だった場合は精密検査を受ける必要であることなどを説明し、その後のプロセスを理解してもらうことが、陽性時の速やかなフォローアップに繋がるとのことであった。

- 意義と重大性：地域特性（「佐賀県は肝がんで亡くなる人が多い」）、リスク（「肝炎には自覚症状がないので、知らないうちに進行する」）、検査のメリット（「早期発見で適切な治療を受ければ肝がんを防げる」）を伝える
- 陽性時のフォローアップ：「病院がサポートしていくので心配いらぬ旨を伝えて、安心感を与える」

### 3.2.1.3. 陽性者への受診（精密検査）・受療（抗ウイルス治療）の勧め

陽性者へのフォローアップでは、伝えるべき情報を選び、伝えすぎないことが大事だという意見が聞かれた。まずは専門医のいる病院を受診し精密検査を受けてもらうことに注力し、治療については説明しすぎずに医師に任せることが効果的な勧奨に繋がるとのことであった。もちろん、陽性判明時に治療に関する不安を覚える陽性者もいるため、そうした場合は、必要に応じて治療や助成制度に関する情報も伝え、不安を解消することがスムーズな受診に繋がる。

- まず伝えるべき情報：「まずは精密検査。治療のことは多くは語らない」
  - ✓ 「放っておくとがんになる危険性があること、精密検査の重要性を伝え、治療についてはその段階では細かくは話さない。陽性者が短時間で受け止められる情報は限られているので、まずは入り口（精密検査）に誘導することに集中」
  - ✓ 「治療についての説明は、治療が必要な陽性者に対して、医師からしてもらった方が効果的」
- 相手の不安を理解し、相手によって対応を変える：
  - ✓ 「治療の副作用が怖いから受診しないという陽性者もいるため、そうした相手には治療が進歩したことを伝えて安心させる」
  - ✓ 「治療費の負担が不安な人には、精密検査だけでなく治療にも助成金

が出ることを伝える」

- ✓ 「物わかり良く“はいはい”と言っている人は危ないので、その後継続してフォローアップするよう心がける。一方で、真剣に聞いているが自分の中で受け止めきれていない様子の人には強く背中を押すようにしている」

また、検査結果（陽性）が分かった時点で、陽性者の心情に配慮しつつも、その場で精密検査の予約を取るなど、次の具体的なプロセスにつなげることも有効だという声も聞かれた。特に、自院で精密検査を実施している医療機関においては、当日そのまま外来での精密検査を予約するようなケースも見られ、フォローアップの際の大きな強みとなっている。

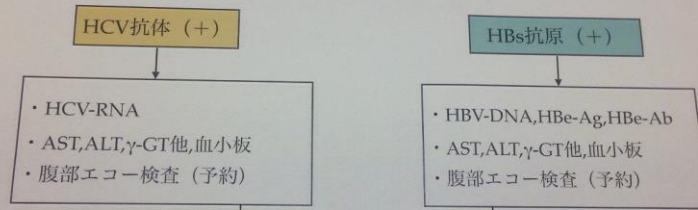
### 3.2.2. サポートツールの活用

肝炎コーディネーターによる口頭での説明だけでなく、陽性の検査結果通知に同封する「検査結果の見方」や、精密検査が受けられる「医療機関リスト」、肝臓を専門としない医師でも判りやすい「陽性者への対応方法」を作成するなど、フォローアップが上手くいっている医療機関では、積極的にサポートツールを活用していた。

- 結果の見方（結果通知時に同封）：検査結果（肝炎ウイルス陽性）が何を意味するのかわかりやすく説明
- 医療機関リスト：精密検査が受けられる地域の医療機関の一覧
  - ✓ 「常に携帯し、陽性者にその場で見せながら医療機関の受診を勧めると、“この病院は知っている”など具体的な話になって、勧めやすい」
- 陽性者への対応方法（医師向け）：HCV 抗体・HB s 抗原陽性者の初診時には、何をすべきかを見える化して診察室に貼り、肝臓を専門としない医師でも適切な対応が取れるように徹底する

（医療機関 A の医師向け“陽性者への対応方法”資料）

小城市民病院におけるHCV抗体・HBs抗原陽性者の  
初診時の対応



ウイルス学的検査施行後2週間以降に  
肝臓内科外来予約

(火曜午前； ■■■ Dr 木曜午前； ■■■ Dr)

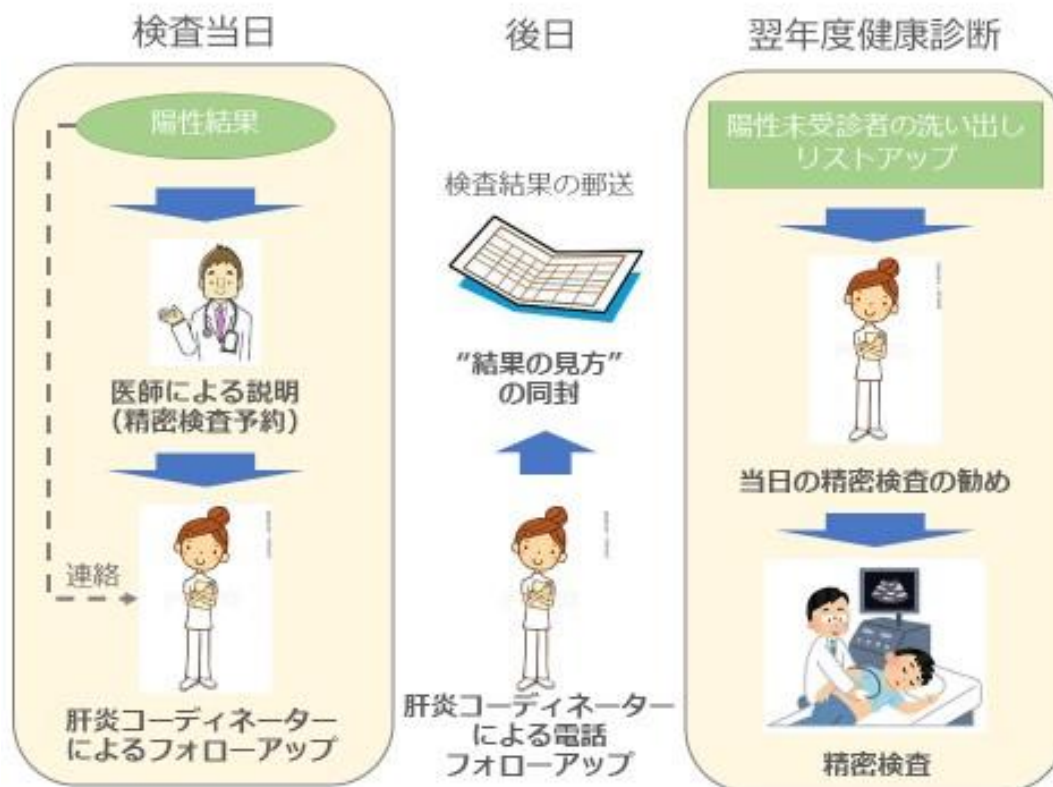
※火曜日に予約される際は、昼頃の時間帯に御紹介願います

### 3.2.3. 次年度の健康診断時に網を張れる体制作り

職域においては、労働者は毎年同じ健診センターもしくは医療機関で健康診断を受診するケースが多くみられる。インタビューを実施したいずれの医療機関においても、そうした状況を活かし、次年度の健康診断時、事前にフォローアップが必要な陽性者を把握して適切な対応が取れる体制を取っていた。

(医療機関 A のケース)

- ▶ 事前に受診予定者の過去の健診結果から陽性者をピックアップし、自院のカルテと付き合わせてその後の受診状況を（把握可能な範囲で）確認し、精密検査未受診者については、健康診断での来院時に必ずフォローアップしている。
- ▶ その場で外来の予約を取って、その日のうちに精密検査につなげられるのも医療機関の大きな強み。



### 3.3. 「ウイルス性肝炎フォローアップマニュアル」の開発・配布

3.1 で明らかになった課題および 3.2 で収集した優良事例に基づき、産業保健に携わる保健師・看護師を対象としたマニュアル（A5 サイズ・全 6 ページ）を以下の通り作成し、6,000 部の印刷を行った。これらのマニュアルは、平成 28 年度以降、佐賀県の産業保健に携わる保健師・看護師をはじめとし、関係各所に配布される予定である。内容については、以下の通り。

(表紙)





## こんなお悩みありませんか？

ウイルス検査  
の勧め

肝がん予防の  
第一歩は、  
肝炎ウイルス検査を  
受けること！

お悩み1

肝炎ウイルス検査の  
効果的な勧め方って？

➡ P2へ

陽性者への  
受診の勧め

検査で陽性だと  
わかって、職場では  
陽性者の約6割が  
精密検査を  
受けていません  
(平成26年度佐賀県調べ)

お悩み2

専門医の受診を勧めても、  
なかなか行動につながらない…

➡ P3へ

労働者の  
状況の把握

せっかく  
健康診断で  
顔を合わせる機会が  
あるのに…

お悩み3

労働者の状況が把握できないので  
必要な受検勧奨や  
フォローアップができない

➡ P5へ

### ● 効果的な声掛けのポイント

「今日は貴重な時間をいただき、ありがとうございます。結果をご覧になって、どのように感じられましたか？」受検者が、精密検査を受けない理由は、知識不足ではありません。まず、その思いに耳を傾けてみましょう。また、説明に入る前には「少し、説明させていただいてもいいでしょうか?」と、許可を取りましょう。信頼関係の構築が、受診への第1歩です。



産業保健相談員  
（一社）社会共済産業医学協会  
理事 健康増進事業課長 佐賀県  
後藤 英之 先生

お悩み  
1

肝炎ウイルス検査の  
効果的な勧め方って？

以下の点をわかりやすく伝えましょう。  
リスクと早期治療のメリットを  
受検者がしっかり理解していれば、  
万が一陽性だった場合にも、早期受診に繋がります。

伝えるべきポイント

ポイント  
① 肝機能検査とは違う

健康診断に含まれる「肝機能検査」の数値では、肝炎に感染しているかどうかは分かりません。

ポイント  
② リスク

肝炎は放っておくと肝がんになることも。自覚症状がないので、知らないうちに進行し自覚症状が出た時には手遅れになることがあります。

ポイント  
③ 早期治療のメリット

早いうちであれば薬で治療することができ、肝がんを防ぐことができます。

地域特性

佐賀県は肝がんで亡くなる人が日本で一番多い県です。

ひと押し  
キーワード

お得感&手軽感

通常だと  
4000円~5000円は  
かかる検査だけど  
安く受けられますよ。

今回の健診の採血で  
一緒にできますよ。  
まずは一度受けておけば  
安心なので、今回ついでに  
受けましょう。





お悩み  
2

陽性者に精密検査を勧めても、  
なかなか受診につながらない

陽性者が最も動きやすいのは、陽性だと分かったその時。  
このタイミングを逃さず、精密検査受診へとつなげましょう。

伝えるべきポイント

**ポイント**  
① 伝える情報を絞る。まずは“精密検査”の勧め

陽性者が短い時間で受け止められる情報は限られています。  
治療について伝えすぎる前に、まずは精密検査を受けることの  
重要性を伝えましょう。

「放っておくとがんになるリスクがあること、精密検査を受ける  
必要があることを伝え、治療についてはその段階ではあまり話し  
ません。まずは入り口(精密検査)に誘導することに集中します」



**ポイント**  
② どこで精密検査を受けられるかを知らせ、  
具体的な次の行動を促す

精密検査が受けられる医療機関を提示し、  
陽性者が次に何をすべきかを明確にしましょう。

「医療機関リストを見せながら、その方にはどの医療機関が  
近いのかなど、できるだけ具体的に話しをします」

「受診する気があるようであれば、その場で精密検査の予約を取ってし  
まうなど、有無を言わせず次のプロセスにつなげるようにしています」



**ポイント**  
③ 家で振り返ることができる資料を準備

陽性結果を書面でしか伝えられない場合や、その場で陽性であることを  
受け止めきれないケースもあるため、わかりやすい資料を準備しましょう。

「説明につかた文書をそのまま持ち帰ってもらっています」

「検査結果(肝炎ウイルス陽性)が何を意味するのかわかりやすく  
説明した文書を検査結果に同封して郵送しています」

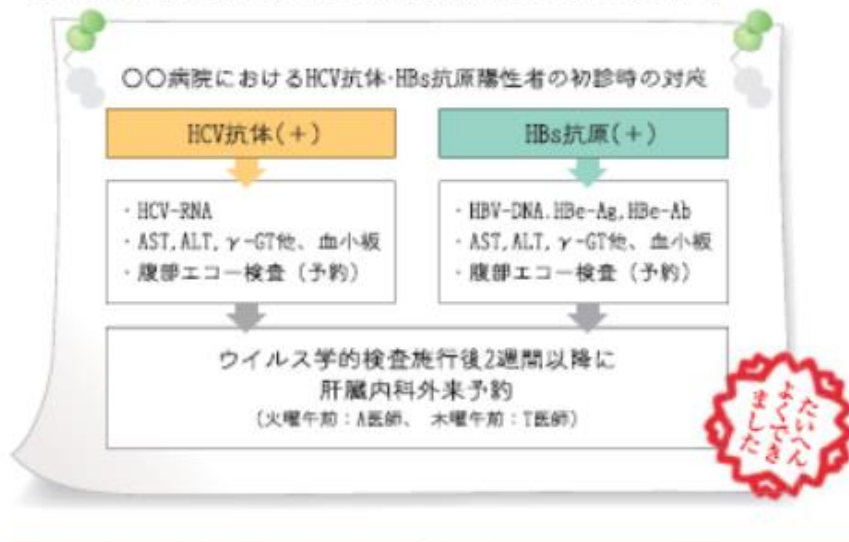


## 検査結果の説明から、スムーズに 精密検査までつなげるしくみをつくるためには？

特に医療機関の場合は、院内向けに「肝炎ウイルス検査陽性者の初診時の対応方法」を用意して、対応を統一するの一つの方法です。特に、医師からの言葉は、陽性者にとって大きな後押しになります。

### 〈ある医療機関の例〉

「HCV抗体・HBs抗原陽性者の初診時には、何をすべきかを見る化して診察室に貼り、肝臓を専門としない医師でも適切な対応が取れるように徹底しています」



### ◎事業所との連携について

労働者が肝炎ウイルス検査を積極的に受検し、また、陽性だとわかった場合に精密検査を受診しやすい環境を整備するためには、**職場における肝炎に対する理解が不可欠です**。産業医や、事業所の安全衛生スタッフと連携し、事業主に積極的に情報提供を行っていくのも一つの方法です。

どのように事業所に働きかけていけば効果的なのかについては、産業保健総合支援センターにお気軽にご相談ください。

お悩み  
3

労働者の状況が把握できないので  
必要な受検勧奨やフォローアップができない

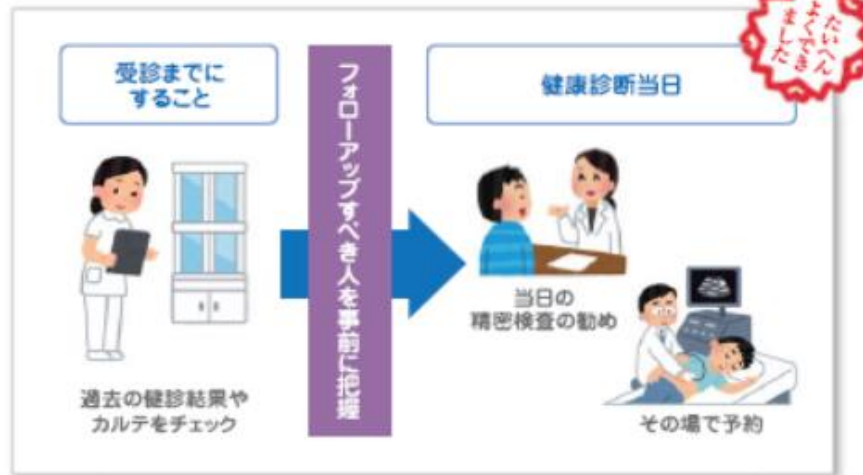
活用できる情報があれば、事前に把握し、  
適切な受検勧奨やフォローアップに繋げましょう。

毎年の健康診断時に網を張る体制を作る

過去の健診結果や、医療機関であればカルテをチェックして、事前に労働者の状況を把握し、健診時に確実にフォローアップできる体制を整えましょう。

「事前に受診者のなかから陽性者をピックアップして、カルテと付き合わせてその後の受診状況をチェックしています。未受診だと思われる陽性者は、健診時に必ず肝炎コーディネーターが状況を確認し、精密検査が必要だと思われる場合には強くお勧めしています」

「未受診者には、その場で予約を勧めて、その日のうちに外来で精密検査を実施することもあります」



● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

## 健診センターなど、事前に労働者の状況を把握するのが難しい場合には？



**健診時にアンケートを実施**するなどして、労働者の状況を把握しやすい仕組みを作りましょう。

但し、肝炎検査の結果やその後の受診状況は個人情報です。労働者本人の同意なしに事業主にアンケート結果が渡らないよう、取り扱いには十分注意してください。

### 〈参考事例〉

事前に把握しきれない事については、問診票やアンケートとして確認することで、労働者が申告しやすい体制を整えることもできます。

その際、受診についての確認は「過去1年で腹部エコー検査を受けましたか？」など、労働者が理解しやすい質問を投げかけることが大事です。

#### アンケート例)

1: これまでに肝炎のウイルス検査を受けたことはありますか?  
ある ない 分からない

2: (検査を受けたことがある方へ)  
ウイルス検査の結果についてお尋ねします。  
陽性 陰性 分からない

3: (陽性の方へ) 過去1年で、専門の医療機関で精密検査(腹部のエコー検査)を受けましたか?

4: (陽性の方へ) これまでに、肝炎の治療を受けましたか、受けた場合、それはどんな治療ですか?  
受けた ( )  
受けていない 分からない



(裏表紙)

## 陽性者の方は 様々な不安を感じています!

感じている不安に応じて必要な情報を伝えて、  
後押ししてあげてください。

- ◎お薬の進歩によって負担が少なく治療ができるようになってきていること
- ◎仕事しながらでも治療できること
- ◎治療には助成金が出ること

陽性者への説明用資材など、  
「肝臓なんでも相談窓口」でご提供しています。  
お気軽にお問い合わせください。



### お問い合わせ

佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター  
**肝臓なんでも相談窓口**

**TEL.0952-34-3731**

月曜～金曜(祝日除く) 10:00～16:00

E-mail : [sagakanzosoudan@gmail.com](mailto:sagakanzosoudan@gmail.com)

独立行政法人労働者健康安全機構  
**佐賀産業保健  
総合支援センター**

**TEL.0952-41-1888**

月曜～金曜(祝日除く) 9:15～17:00

E-mail : [sanpo41-8@sagas.johas.go.jp](mailto:sanpo41-8@sagas.johas.go.jp)

※お問い合わせは、ホームページ(お問い合わせフォーム)からどうぞ

本マニュアルは、平成27年度佐賀産業保健総合支援センター「ソーシャルマーケティング手法を用いた産業保健に関わる保健師および担当者のためのウイルス性肝炎対策Q&A集作成を目的とした調査研究」で作成されました。